

— 資料紹介 —

サイベ沢遺跡出土の円筒上層 a 式土器

令和2年10月29日から始まった収蔵資料展「はこだての縄文文化」展のシンボルが、西桔梗町サイベ沢遺跡から出土したこの円筒上層 a 式土器です。円筒土器の名は、青森県北津軽郡市浦村相内（現五所川原市）にあるオセドウ貝塚の調査に由来します。調査者の長谷部言人博士が、遺跡の上下2層に分けられた遺物包含層の上層から出土したものを円筒上層式土器（中期）、下層から出土したものを円筒下層式土器（前期）と命名しました。

円筒土器は、植物質食料の利用により社会経済が安定し、発展した時期の所産で、世界遺産候補に推薦された「北海道・北東北の縄文遺跡群」が所在する東西約250km、津軽海峡をはさんだ南北約500kmの土地で最も多く

目にするのできる縄文土器の1つです。具体的には縄文前期中葉から中期中葉まで（約6,500～4,400年前）石狩低地帯から馬淵川と米代川を結んだ線より北側を中心に、円筒土器文化圏とよばれる物質文化、精神文化を1つにした広がりを持っていました（最北は礼文島—最南は山形まで広がりを持ちます）。この土器の特徴は、底径に比して高さのある円筒形の器形で、口縁には装飾された貼付文や撚り紐による刺突・押圧を中心とした4単位に区画された文様帯と、胴部に施される縄文です。器面全面に広がる圧倒的な縄文の文様は最も縄文土器らしい縄文土器と呼べるかもしれません。

魚や貝などの海の幸と、ドングリなどの山の幸を利用するため、この時期の多くの集落は海岸段丘や河岸段丘縁の日当たりの良い緩斜面に集落を作りました。さらに、この地域では石材やアスファルトなどの材料の交易を発展させ、ヒスイなど威信財や、甕棺、青竜刀形石器の使用など、人の移動に伴うような習慣や行動、生活様式など特徴的な文化が見られます。円筒土器文化の根付いた地域では、後期になるとストーンサークルなどの集団墓が各地に作られ、晩期には亀ヶ岡式土器文化の母体となる地域といえることができます。

写真の土器が出土した西桔梗町サイベ沢遺跡は縄文時代前期初頭から中期末までの約3,000年に渡って営まれた集落遺跡です。遺跡の広さは約15ヘクタールと、北海道内でも最大級の大きさで、円筒下層式や上層式土器が大量に含まれる厚さ4mの文化層やヒスイ製品などの交易品も発見されるなど、この地域の拠点集落とみられ、また古くから土器や石器が出土することでも知られた遺跡でした。写真の土器は、昭和24年市立函館博物館により発掘調査が行われた際に出土したものです。

円筒上層式土器には、土器の口縁が大きく波打つような波状口縁と、平坦な平縁のものがあり、いずれも口の縁が肥厚し、細かなヒモを巻き付けたような文様がつけられます。口縁からくびれのある頸部を区画し、あたかも持ち運ぶために縄でくくったような文様がつけられ、胴部には縄文土器を象徴する縄目の文様が施されています。器形は、4単位の大きな突起を持つものが多く、突起を中心に口縁部や上半部に粘土紐や原体の押圧・刺突沈線などによって華やかな装飾が施されています。サイベ沢遺跡から出土した土器群は、北海道における円筒土器文化の標式資料となっています。（佐藤 智雄）



サイベ沢遺跡から出土した円筒上層 a 式土器

— 収集・収蔵 —

収蔵資料概数一覧

※令和3年3月31日現在

分類	件数	点数
博物館史	453件	1,707点
地質鉱物	2,035件	2,934点
植物	10,335件	10,358点
動物	10,925件	23,799点
考古	11,521件	585,111点
歴史	6,082件	22,641点
民俗	7,147件	21,495点
民族	6,361件	12,137点
美術工芸	6,713件	8,087点
合計	61,572件	688,269点

※一部の寄託資料を含みます。

※一括は1件1点と計算しています。

※収蔵資料データベースの再整理を実施しているため、収蔵点数が変動しています。

※北洋資料館旧蔵、戸井・恵山町旧蔵資料は含みません。

令和2年度 新収蔵資料

- 堤清六写真 他 49点
【個人 寄贈】
- 棒二森屋百貨店資料（棒二森屋百貨店図面 他）
【函館市：株式会社中合棒二森屋店 寄贈】 105点
- 曙光雑報 1点
【函館市：住田功一 寄贈】
- 函館製網船具（株）風呂敷 1点
【札幌市：個人 寄贈】
- 「はこだて」（冊子） 他 7点
【青森市：竹内義人 寄贈】
- 小刀（マキリ） 1点
【函館市：伊藤幸雄 寄贈】
- 棒二森屋関係資料（夫人服用紙箱） 他 8点
【函館市：個人 寄贈】
- デンビー商会番屋看板・洋皿 8点
【函館市：中嶋肇 寄贈】
- 旭バス停留所標柱 1点
【函館市：田川裕治 寄贈】
- レコード 2点
【北斗市：坂田節子 寄贈】
- 河郎参禅之図 他 3点
【札幌市：笹野和子 寄贈】
- 潘連夫書 他 2点
【函館市：尾形邦夫 寄贈】
- アイヌ風俗屏風（木村巴江） 2点

【美深町：河上清美 寄贈】

■柳川亭・柳川熊吉写真 3点

【函館市：柳川厚史 寄贈】

■鶴亀（蠣崎波響）・書画貼交屏風（平福穂庵ほか）

【横浜市：田端芳郎 寄贈】 3点

（敬称略）

資料保存

令和2年度は当館美術収蔵庫および3階展示室裏の昆虫類モニタリング調査を実施しました。

この調査は隙間などから侵入する昆虫類の種類や数を調査し対処することで、収蔵する資料の保護に役立っています。調査は6月から開始し、7月・8月には侵入する昆虫が増加傾向にあったため、対策として壁などの隙間のコーキングを行ったところ、侵入昆虫類の数は減少しました。調査は11月で終了しました。また、8月には昆虫標本の保管庫において、殺虫・殺カビを目的としたガス燻蒸を行いました。令和3年度も引き続き防虫・防カビを対策し、資料保存に努めていきます。

— 普及（展覧会） —

企画展

■ —北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざして—
津軽海峡北岸の縄文遺跡

令和2年は史跡大船遺跡・史跡垣ノ島遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、ユネスコ世界遺産に推薦されましたが、当館では今後の世界遺産登録に向けて、大船・垣ノ島遺跡を中心に、渡島管内の構成資産とこれまで函館市内で発掘・収集された秀逸な資料を展示し、津軽海峡北岸域の縄文文化を紹介しました。



期 間	令和2年7月11日(土)～10月18日(日)
開館日数	88日
後援・協力	北海道教育委員会・渡島総合振興局・道南歴史文化振興財団・道南縄文文化推進協議会・道南ブロック博物館施設等連絡協議会・南北海道考古学情報交換会・公立はこだて未来大学・千歳市教育委員会(埋蔵文化財センター)・伊達市教育委員会(伊達市噴火湾文化研究所)・洞爺湖町教育委員会・札幌市埋蔵文化財センター・公益法人北海道埋蔵文化財センター・苫小牧市美術博物館・よいち水産博物館
出品協力	森町教育委員会・北斗市教育委員会(郷土資料館)・七飯町歴史館・木古内町教育委員会(郷土資料館)・福島町教育委員会・松前町教育委員会・八雲町郷土資料館・函館市中央図書館
出品資料	垣ノ島遺跡出土の青竜刀形石器他 約1,300点
観覧者数	5,009名
関連事業	関連事業 展示解説2回、縄文時代の角偶を作ろう2回、鹿角で縄文時代の釣針を作ろう2回、縄文スタンプラリー、こども学芸員
担 当	佐藤

■ はこだての縄文文化

函館は明治11年、ジョン・ミルンやトーマス・W・ブラキストンが函館公園貝塚の調査を行った考古学のあけぼのの地です。以来、昭和24年当時、日本三大発掘のひとつと言われた桔梗町サイベ沢遺跡の調査や、昭和50年の著保内野遺跡の土偶発見、早期最大規模の集落の発見といわれた平成4年から始まる函館空港の調査など、常に研究者の耳目を集めてきました。この収蔵資料展では、当館が所蔵する著名な遺跡から出土した資料を中心に、函館の縄文時代の資料を時代順に展示しました。

期 間	令和2年10月29日(木)～
開館日数	開催中
出品協力	函館市文化財課
出品資料	サイベ沢遺跡出土土器他 994点
担 当	佐藤

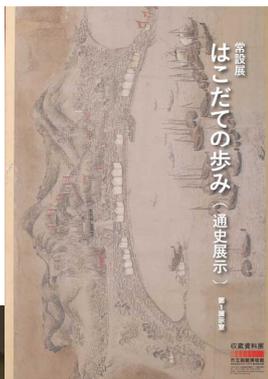


常設展・収蔵資料展

■ はこだての歩み展(通史・常設展)

当館では、近年は通史展示を行っていませんでしたが、来館者からの要望が多かったため、新たな通史展示をはじめました。当館所蔵資料のほか、函館市中央図書館資料もあわせて、中世から現代までの函館の歩みを11のコーナーに分けて、わかりやすくコンパクトに展示しています。

期 間	令和2年10月29日(木)～
開館日数	開催中
出品協力	函館市中央図書館
出品資料	ペリー提督寄贈の洋酒びん 他261点
担 当	奥野



スタンプラリー・ロビー展

■ 縄文スタンプラリー・こども学芸員ロビー展

企画展「津軽海峡北岸の縄文遺跡」の関連事業として、「Jomon とれじゃーはんていんぐ」と題した縄文スタンプラリーを開催しました。

企画展に資料を出品していただいた道南の代表的な遺跡や遺物を展示保存する資料館をめぐり、世界遺産への機運を高めてもらい、道南地域の縄文文化への理解を深めてもらう取り組みです。各館では、それぞれオリジナルスタンプと縄文カードを提供、さらに3館、5館、9館のスタンプ収集者には、各賞に応じた景品を贈呈しました。

実施にあたっては、各自新型コロナウイルス感染対策を取りながらの開催となりました。コロナ渦のなか、参加者は、家族単位で参加される方が多く、開催側・参加者側からも好評のうちに終了しました。

企画終了後、全館のスタンプを集めた子供を「こども学芸員」に認定し、参加を希望する子供たちによるロビー展「ジュニアJomon」展を開催しました。

縄文スタンブラー開催概要

期 間	令和2年8月1日(土)～9月30日(水)
主 催	函館市教育委員会・渡島総合振興局
協 力	渡島地域の各教育委員会・道南縄文文化推進協議会・道南歴史文化振興財団・ホテル函館ひろめ荘・日の出製麺株式会社
参 加 館	市立函館博物館・函館市縄文文化交流センター・七飯町歴史館・北斗市郷土資料館・木古内町郷土資料館・チロップ館・松前町郷土資料館・森町遺跡発掘調査事務所展示室・八雲町郷土資料館
参加者数	3館達成者440人・5館達成者293人・9館達成者205人
担 当	佐藤・奥野



竪穴建物復元の様子



土器の復元にも挑戦しました

<p>松前町郷土資料館</p> <p>土器 松前町山崎跡 縄文時代前期 海成北岸の縄文フィニアス</p>	<p>木古内町郷土資料館いかりん館</p> <p>土器(顔部) 木古内町景台4遺跡 縄文時代前期 カモメの髭毛と高い鼻、縄文時代のイタメン</p>	<p>市立函館博物館</p> <p>土器 函館市戸井遺跡 縄文時代前期 鹿角の骨力を持ったヒトガタのお守り</p>
--	---	---

各館の縄文カード

令和2年度展覧会開催日数・入館状況

期 間	11月3日(火)～令和3年1月28日(木)	ジュニア縄文展開催概要
開催日数	65日	
出品資料	子ども達が取り組んだ復元竪穴住居や復元土器、子ども達が作成の勾玉・鹿角の釣り針他	
担 当	佐藤	

	常設展	企画展	合計
開催期間	4/1～6/29,7/5～10,10/29～3/31	7/11～10/19	
開催日数	169日	88日	267日
有料入館者	1,634人	3,722人	5,356人
無料入館者	2,290人	1,287人	3,577人
入館者合計	3,924人	5,009人	8,933人

展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
日	4/1～6/29		6/30～7/4	7/11～10/19			10/20～28	11/3～1/28		1/30～3/31					
ロビー	世界遺産PR展示 函館の縄文垣ノ島遺跡と戸井貝塚の出土品 担当：佐藤			企画展関連ドローン映像ブース				ジュニア縄文展 担当：佐藤		はこだての古代 担当：佐藤					
第1展示室	収蔵資料展 「昭和・なつかしの暮らし」 担当：尾崎			展示替え				常設展 「はこだての歩み(通史)」 担当：奥野							
第2展示室	収蔵資料展 「渡る鳥渡らない鳥」 担当：尾崎							収蔵資料展 「昭和・なつかしの暮らし」 担当：尾崎 ※7/5～10については、収蔵資料展のみの開館				収蔵資料展 「はこだての縄文文化」 担当：佐藤			
第3展示室	収蔵資料展 「箱館戦争」 担当：保科・内田							企画展 「津軽海峡北岸の縄文遺跡」 担当：佐藤				収蔵資料展 「箱館戦争」 担当：保科・内田			

— 普及（講座） —

令和2年度 講座開催実績

【単講座】

No.	講座名	開催期日	講師	参加/定員
1	春の函館公園・函館山自然観察会	5月16日(土)	外部講師	中止
2	博物館旧1号館公開	5月23日(土)		中止
3	美術鑑賞会 波響をみる	7月5日(日)	奥野	中止
4	博物館旧1号館公開	7月11日(土)		中止
5	昔のおもちゃを作って遊ぼう!	7月23日(木)	尾崎・内田	10/ 10
6	博物館資料のしおりを作ろう!	7月24日(金)	尾崎・内田	9/ 10
7	「博物館旧1号館公開」とゲームに出てくる貝や虫を見てみよう!	7月25日(土)	尾崎・内田	204/ -
8	子ども学芸員になろう!	8月4日(火)	保科・尾崎・内田	6/ 10
9	夏休み自由研究「縄文時代の角偶をつくろう」	8月5日(水) 2回開催	佐藤	8/ 5 5/ 5
10	夏休み自由研究「博物館子ども探検隊」	8月6日(木) 2回開催	保科・尾崎・内田	7/ 5 4/ 5
11	夏休み自由研究「鹿角で縄文時代の釣り針をつくろう」	8月7日(金)	佐藤	4/ 5 8/ 5
12	夏休み自由研究「函館公園ひょうたん池のザリガニを見よう」	8月10日(月) 2回開催	尾崎・内田	10/ 10 11/ 10
13	千島アイヌのテンキ技法でコースターをつくろう	9月5日(土)	外部講師 奥野	中止
14	秋の美術鑑賞会 波響をみる	9月13日(日) 2回開催	博物館 実習生	9/ 10 8/ 10
15	函館公園満喫歴史ツアー	10月4日(日)	外部講師 尾崎・内田	23/ 20
16	体験! 日本画講座	10月11日・18日・ 25日(日)	外部講師 奥野	7/ 8
17	秋の函館公園・函館山自然観察会	10月17日(土)	外部講師 尾崎・内田	14/ 20
18	冬の函館公園・函館山自然観察会	1月23日(土)	外部講師 尾崎・内田	12/ 20
19	忘れない! 函館大火	3月19日(金)	保科・尾崎	11/ 20

計 370名

■ 夏休み自由研究「函館公園ひょうたん池のザリガニを見よう」について

令和元年度に続き、環境教育の一環として、函館公園のひょうたん池に生息する外来種アメリカザリガニにを実際に釣り、捕獲観察を行いました。午前の部、午後の部で合計21名が参加、約1mの竹竿にたこ糸をしぼり、エサにさきイカ、カルパスを付けて実施し、各自平均20匹、合計389匹を採集しました。今回採集されたアメリカザリガニは甲長5cmほどが多く、恐らくふ化後2年の個体で、予想以上の数がひょうたん池に生息していると思われます。来年度以降も継続的に調査を実施していきたいと考えています。

なお、捕獲したアメリカザリガニは駆除しました。

ザリガニ釣りを
する参加者たち

【展示解説セミナー】

No.		開	講師	参加
1	展示解説セミナー	7月4日(土)	佐藤	中止
	企画展「津軽海峡北岸の縄文遺跡」	8月8日(土) 8月22日(土)		10/ - 10/ -

計 20名

【おもてなし講座等】

No.	講座名	開催期日	件数/参加数
1	展示解説	通年	6件 182名
2	バックヤードツアー	通年	3件 46名
3	見せます! お宝公開!	4/1~11/3の開催日	0件 0名
4	函館博物場見学	4/1~11/3の開催日	1件 5名

計 10件/233名

※人数は、複数講座受講者を含む延べ人数

【特別講座】

No.	講座名	開催期間	講師	参加
1	こども学芸員	10月31日(土)	佐藤 ほ	31
	土器のふくげん	11月1日(日)	か	(8)
	どごう衣しょうの復元			(3)
	石器の観察と分類			(1)
	つりばり・まが玉づくり			(5)
	たてあな住きよの復元			(14)

※スタンプラリー9館達成者のうち希望者が参加 ()は内数

協力機関等

函館市縄文文化交流センター、函館市住宅都市施設公社、佐藤理夫、安積徹、渡辺知子、博物館実習生(順不同・敬称略)

— 調査・研究 —**研究論文・コラム等**

- 佐藤智雄「恵山貝塚」『発掘された日本列島2020 新発見考古速報』文化庁 2020年6月4日発行
- 保科智治「〈資料紹介〉館蔵『笹野家関係文書』の紹介」『市立函館博物館研究紀要』31 市立函館博物館 2021(電子版)
- 佐藤智雄『岩手県大船渡市 宮野貝塚 本丸館遺跡』平成26・28・29年度緊急発掘調査報告書 2021(編集協力)

【新聞等掲載コラム】

- 内田彩葉 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS『『もくもく』会開催』『道博協ニュース』第127号(2020年10月3日発行)
- 奥野進 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS「道南の博物館・資料館をめぐる、縄文スタンプラリー「Johmonとれじゃーはんていんぐ」『道博協ニュース』第128号(2021年3月17日発行)

- 北海道新聞(夕刊 みなみ風)掲載「学芸員レポート」

- ・奥野進「博物館活動を考える」(令和2年9月25日)

- ・内田彩葉「宮古湾海戦」(令和2年12月11日)

【道南ブロック博物館施設等連絡協議会ブログへのコラム投稿】

- ・内田彩葉「宮古湾海戦 朝陽はいなかった？」
- ・奥野進「標本の効用—お魚くわえたドラ猫？」
- ・保科智治「仏から神へ」

研究発表等

- 函館市高齢者大学青柳校 「函館からアイヌ史を考える」(令和2年9月2日) 講師派遣(奥野)
- 函館市高齢者大学青柳校 「函館からアイヌ史を考える」(令和2年9月3日) 講師派遣(奥野)
- 函館市亀田老人大学 「函館からアイヌ史を考える」(令和2年9月8日) 講師派遣(奥野)

印刷物発行

- 企画展『津軽海峡北岸の縄文遺跡』市立函館博物館 2020 ※令和2年7月11日発行 40頁
- 『市立函館博物館研究紀要』31(電子版) 市立函館博物館 2021 ※令和3年3月31日発行

— 協力事業等 —**協力事業****【資料貸出】**

- 市立函館博物館郷土資料館常設展示 本館所蔵、明治期の歴史・民俗資料等を展示
- 函館市北方民族資料常設展示 本館所蔵、アイヌ・北方民族資料等を展示(12月展示替え)
- 函館市文学館常設展示「梁川剛一コーナー」 本館所蔵、挿し絵・彫塑等を展示(1月展示替え)
- 函館市北洋資料館常設展示 本館所蔵、北洋漁業関係資料を展示
- 函館市戸井西部総合センター展示コーナー 本館所蔵、戸井の板碑・土器・石器等を展示
- えさん小学校展示コーナー 本館所蔵、恵山地区出土の土器・石器等を展示
- 箱館奉行所常設展示(平成22年7月28日～) 本館所蔵「エンフィールド銃」他 計6点貸出
- 函館市縄文文化交流センター常設展示(平成28年4月1日～) 本館所蔵「ヤス」他 計112点貸出
- 函館市教育委員会主催「函館空港ギャラリー常設展示 函館縄文遺跡探訪—函館空港遺跡群と北の縄文文化—」(平成28年4月4日～) 本館所蔵「伊藤コレクション」他 計14点貸出
- 函館市中央図書館展示コーナー 本館所蔵縄文関係資料を展示(令和2年4月2日～9月23日) 計137点貸出
- 文化庁「発掘された日本列島 新発見考古学速報2020」(令和2年5月26日～3月10日) 本館所蔵恵山貝塚出土品 計14点貸出
- 函館市中央図書館展示コーナー 本館所蔵千葉軒

- 岳書を展示（令和2年9月24日～） 計3点貸出
- 北海道立函館美術館 ハコビ・マジカル・ワーク ショップ 日本画に挑戦！（令和2年7月30日～8月30日） 本館所蔵「孔雀石」他 計11点
 - 国立アイヌ民族博物館 基本展示（令和2年9月2日～令和3年3月5日） 本館所蔵「草皮衣」他11点貸出
 - 函館市北方民族資料館 ミュージアム・トーク「ヌルガン永寧寺碑文とアイヌの北方世界」で展示（令和2年10月31日～11月1日） 本館所蔵「重健永寧寺碑」他 計2点貸出
 - 北海道庁1階ロビー及び「縄文春まつり 2021」で展示（令和3年2月17日～3月19日） 本館所蔵「松前町川上遺跡出土土偶」1点貸出
 - 国立アイヌ民族博物館 基本展示（令和3年2月25日～9月30日・令和4年3月31日） 本館所蔵「蝦夷絵」他17点貸出
 - 市立函館博物館郷土資料館 収蔵ひな人形展（令和3年2月18日～3月7日） 本館所蔵渡辺家旧蔵ひな人形1セットを展示
- 【収録・出演】**
- オリジナルフレーム切手セット「函館のアイヌコレクション」販売・寄贈贈呈式（6月25日）収録（阿部）
 - HBC 企画展「津軽海峡北岸の遺跡」紹介（令和2年7月14日）収録（佐藤）
 - NHK 企画展「津軽海峡北岸の遺跡」紹介（令和2年7月21日）収録（阿部・佐藤）
 - FMいるか 企画展「津軽海峡北岸の遺跡」紹介（令和2年7月31日）いるか号中継（佐藤）
 - NHKニュース「Jomonとれじゃーはんていんぐ」（令和2年8月6日）収録（阿部・奥野）
 - FMいるか 企画展「津軽海峡北岸の遺跡」紹介（令和2年8月12日）収録（佐藤）
 - NHKエンタープライズ「絶対行きたくなるニッポン不滅の名城・一乗谷城」（令和2年10月7日）（佐藤）
 - NHKニュース「はこだての歩み」展（令和2年11月4日）収録（奥野）
 - 潮光中学校 ビデオ制作（令和2年9月14日）収録（佐藤）
- 【会議出席等】**
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 南北海道の文化財部会オンライン会議（令和2年4月8日）出席（奥野）
 - 令和2年度第1回国立アイヌ民族博物館ネットワーク協議会設立準備委員会（令和2年9月5日、白老町）出席（奥野）

- 第2回アイヌ遺骨等関係博物館等意見交換会（令和2年9月18日、札幌市）出席（奥野）
 - 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 南北海道の文化財部会における「もくもく会」（令和2年7月30日、八雲町）出席（奥野、内田）
 - 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 第2回役員会（令和2年8月25日、江差町）出席（阿部、奥野）
 - 北海道博物館協会 第1回あり方検討委員会（令和2年11月11日、札幌市）出席（奥野）
 - 令和2年度第1回国立アイヌ民族博物館ネットワーク協議会設立準備委員会（令和3年3月1日、白老町）出席（奥野）
 - 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 第3回役員会（令和2年12月17日、江差町）出席（阿部、奥野、内田）
 - 第1回アイヌ遺骨等関係博物館等意見交換会（令和2年3月20日、札幌市）出席（奥野）
 - 令和2年度北前船日本遺産推進協議会学芸員セミナー（令和3年2月24日、オンライン講演会）出席（保科、内田）
 - 第2回アイヌ遺骨等関係博物館等意見交換会（令和3年3月12日、オンライン会議）出席（奥野）
- 【後援】**
- 函館アイヌ協会主催「イチャルパ（先祖供養の儀式）」（令和2年10月10日）後援
- 【その他】**
- 渡島総合振興局 ラッピングバス縄文号関連事業への協力（佐藤）
 - 函館市文学館展示ケース照明のLED化への対応（尾崎）
 - 「戸井観光マップMAP」「戸井地区文化祭」等への協力（佐藤）

■ 函館市中央図書館での出張展示

令和2年度は、函館市中央図書館での2件のロビー展示にも取り組みました。4月2日から「函館の縄文と世界遺産縄文」と題し、パネルや土器・石器などを展示し、9月24日からは「縄文を想う」と題し、書家千葉軒岳氏の作品3点を展示しています。



「函館の縄文と世界遺産縄文」展示

資料利用・調査・掲載等

■ 考古資料（「北海道志海苔中世遺構出土銭」等）	36件
■ 歴史資料（「戦友姿絵」等）	54件
■ 民族資料（「蝦夷錦」等）	17件
■ 美術資料（「露下コロポックル人の図」等）	18件
■ 自然資料	0件
■ 民俗資料	0件
■ 博物館史資料	0件
■ その他	0件
合計	125件



特別に開設した
ラブライブ展示
コーナー

博物館実習

令和2年9月8日から25日までの実日数14日間で北海道大学水産学部6名、上智大学1名の計7名を実習生として受け入れました。今回は各分野の整理保存実習のほか、令和元年度に受け入れた新収蔵資料展示コーナーを実際に企画展示、さらに来館者への展示解説も行いました。



自分たちの展示した新収蔵展示コーナーの前での記念撮影

— 博物館短信 —

アニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」

文化庁の博物館異分野連携モデル構築事業として実施された、「ラブライブ！サンシャイン Saint Aqours Snow ～函館 街めぐり～」(令和2年12月21日～令和3年1月11日)に北海道立函館美術館、函館市熱帯植物園、五稜郭タワーとともに参加しました。

この事業は、五稜郭タワーでのアニメ原画展やサウンドAR（携帯電話アプリで参加）を活用した、アニメキャラクターによる参加施設・ゆかりの地の観光案内、入館者へのポストカード特典などを組み合わせた新しい試みです。開催期間中にGoToトラベル事業の停止などもあり、入館者は多くはありませんでしたが、熱心なファンが来館していました。

ボランティア活動

■ 古文書調査ボランティア

平成12年から始めた当ボランティア活動は今年度をもって終了しました。令和2年度までに408回開催し、延べ172人が参加しました。整理した資料は約9,000点、その内約3,000点を解読しました。

整理・解読した資料などを基に、当館の研究紀要で16の論考を発表しました。その内11本が参加者によるものです。他にも特別展等において資料の書き下しを行っていただき、図録等にその成果が反映されています。平成25年には、整理・解読の成果を元にした企画展「函館商人の人生模様」を開催しました。

20年にわたり参加していただいた方も数名いました。長い間本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



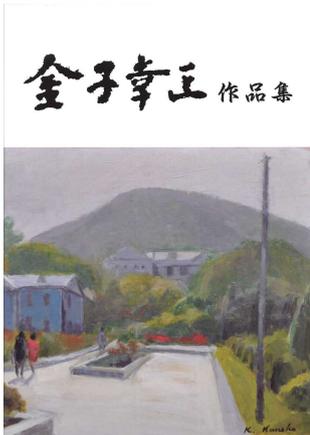
■ 清掃ボランティア

令和2年度も北海道函館五稜郭支援学校生徒による清掃ボランティア活動が行われました。

高等部生徒さんらによる「地域貢献活動」のひとつとして平成27年度から行われ、展示室裏側の清掃などをお願いしてきましたが、令和3年3月で42年間の歴史に幕を下ろし、閉校となることから、令和2年度が最後の活動となりました。今までありがとうございました。

■ 金子幸正作品整理ボランティア

令和元年度から開始した、グループ"KANNNNA"の市民有志5名による絵画整理を継続して行いました。作業を行うなかで、整理した作品を展示したいとの要望があり、令和3年度にロビー展を行う予定です。あわせて、有志による「金子幸正作品集」が刊行され、当館にも寄贈されました。



刊行された「金子幸正作品集」

よみがえる明治時代の展示ケース

当館では古くから伝わる12台の展示ケースを所蔵しています。開拓使函館仮博物館で使用されていたものも含まれていると考えられており、ケース自体が日本の博物史を物語る資料とも言えるものです。

現在も、当館で使用していたものもありましたが、長年使用していなかったものは汚れや破損のためそのまま使用できる状態ではありませんでした。

このため令和2年度から2台ずつ修繕を行うこととし、破損したガラスの交換や引き戸の建て付け、内装など、できるだけ現状を維持しながらの修繕を行いました。修理した展示ケースは常設展のなかで使用し、立派にその役割を果たしています。



博物館史コーナーで使用している修繕した展示ケース

博物館協議会を開催

令和2年度の博物館協議会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、年度内の開催を延期し、令和3年4月13日に開催しました。会議では、令和2年度の事業報告、令和3年度の事業計画の審議の後、市立函館博物館郷土資料館の管理運営について意見をいただきました。

新型コロナウイルスによる影響

令和元年度末（令和2年3月2日～21日）に続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月18日から5月24日まで臨時休館としました。

開館にあたっては、アルコール消毒やマスクの着用などの入館者への案内や、「北海道コロナ通知システム」（同じ日に来館した方の中から新型コロナウイルスの感染者が確認された場合、北海道から電子メールが届くシステム）、ソーシャルディスタンスの啓発などの対策を取りました。

また、企画展も借用を予定していた道央圏からの貸出を取りやめ、開催期間を変更、講座や講演会についても中止や内容の再検討をしてからの実施となりました。

幸い当館からクラスターが発生することもなく、無事令和2年度に予定していた事業を終えることができました。



ソーシャルディスタンス啓発のため、足形土版や動物の足形を使用したシールを展示室床に配置しました

外壁の改修工事

市立函館博物館本館は、1966年（昭和41年）に開館し、当時としては最新の建物でしたが、50年以上が経過し、老朽化も目立つようになってきました。数年前から、暖房室を設置するなど、施設の改善を進めてきましたが、令和2年度は窓、換気口および外壁等の大規模な改修工事（令和2年9月24日～令

和3年1月15日)を実施しました。

まだ改修できていない部分もあることから、引き続き適切な施設の維持・管理を進めていきたいと考えています。



新しくなった外壁

アイヌの伝統儀礼イチャルパを実施

令和2年10月10日、当館が保管するアイヌの方々のご遺骨の慰霊のため、函館アイヌ協会主催による「イチャルパ(先祖供養の儀式)」が当館横の広場で実施されました。令和2年度で5回目となりましたが、祭壇に用いる柳の伐採など、当館も同協会に協力して実施されました。新型コロナウイルス感染症の予防から大々的なチラシ配布等はいりませんが、アイヌ文化に触れてもらう機会を充実させるため、同協会と協議し、今回から一般見学を受け入れることとしました。



イチャルパの後に披露された弓の舞

令和3年度企画展開催予告

■ 企画展「垣ノ島・大船遺跡と世界遺産」(令和3年6月26日～9月26日)

令和元年、史跡大船遺跡・史跡垣ノ島遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、ユネスコ世界遺産の国内推薦候補に選定され、令和2年9月にはイコモスによる視察を受けました。早ければ、令和3年度には両遺跡が世界遺産へ登録となる期待がよりいっそう高まってきています。このような中市民が一丸となり、さらなる気運醸成を図るために史跡大船遺跡と史跡垣ノ島遺跡を中心に北海道内の縄文文化を紹介する企画展を計画し、ミュージアムトークや講座などさまざまな行事と共に開催を予定しています。



大船遺跡出土の土器
(旧大船遺跡展示室)

令和2年度職員構成等

館長 阿部貴樹 ————— 博物館協議会(委員11名)

管理担当	学芸担当
三浦正志(主査)	奥野進(主査、美術・民族)
萩野千春	保科智治(歴史・民俗)
小林政人	内田彩葉(歴史)
(会計年度任用)	尾崎渉(自然)
	佐藤智雄(考古)
	山本泰子(会計年度任用)

※ 函館市中央図書館郷土資料担当

天野武春(主査)
長谷川佳代子
佐藤珠江(会計年度任用)
福本衣栄(会計年度任用)
奥山麻央(会計年度任用)

SARANIP—サラニップ— No. 60

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

— 誌名SARANIP(サラニップ) —

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。